

6.4 教育成果のあり方

進捗状況報告

【6.4.1教育効果の測定】

前期課程においては、2005年度の自己点検・評価報告書に記載したキリスト教関連活動に従事する者（牧師を含む）の統計を、今後とも継続して調査し、それによって教育成果を測定することとしている。
後期課程は、継続的に学位取得へ向けての指導を徹底すると同時に、2008年度より公開している「学位取得までのプロセス」において研究発表や論文執筆の数を上げ、教育効果の指標の一部とする予定である。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2007年度より、「神学研究会」において、後期課程学生の発表を行うようにした。

学内第三者評価

博士後期課程在学者に論文発表や学会発表を義務づけるだけでなく、「神学研究会」において発表の場を与え、研究の動機付けと督励を行うことが好ましい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
教育成果の指標として、昨年度国際貢献の立場からの視点を求められているが、その他にも例えば英語の学力に関する客観的なデータや各種資格試験の結果なども指標になりうる。研究科の修了者として身につけていることが期待される能力や資質等を示すデータを収集・整理しておくことによって、研究科の教育の特色を広く説明することができる。社会への説明責任を果たすためにも、多様な指標を用いて目標に即した教育が行われていることを明示することが望まれる。